



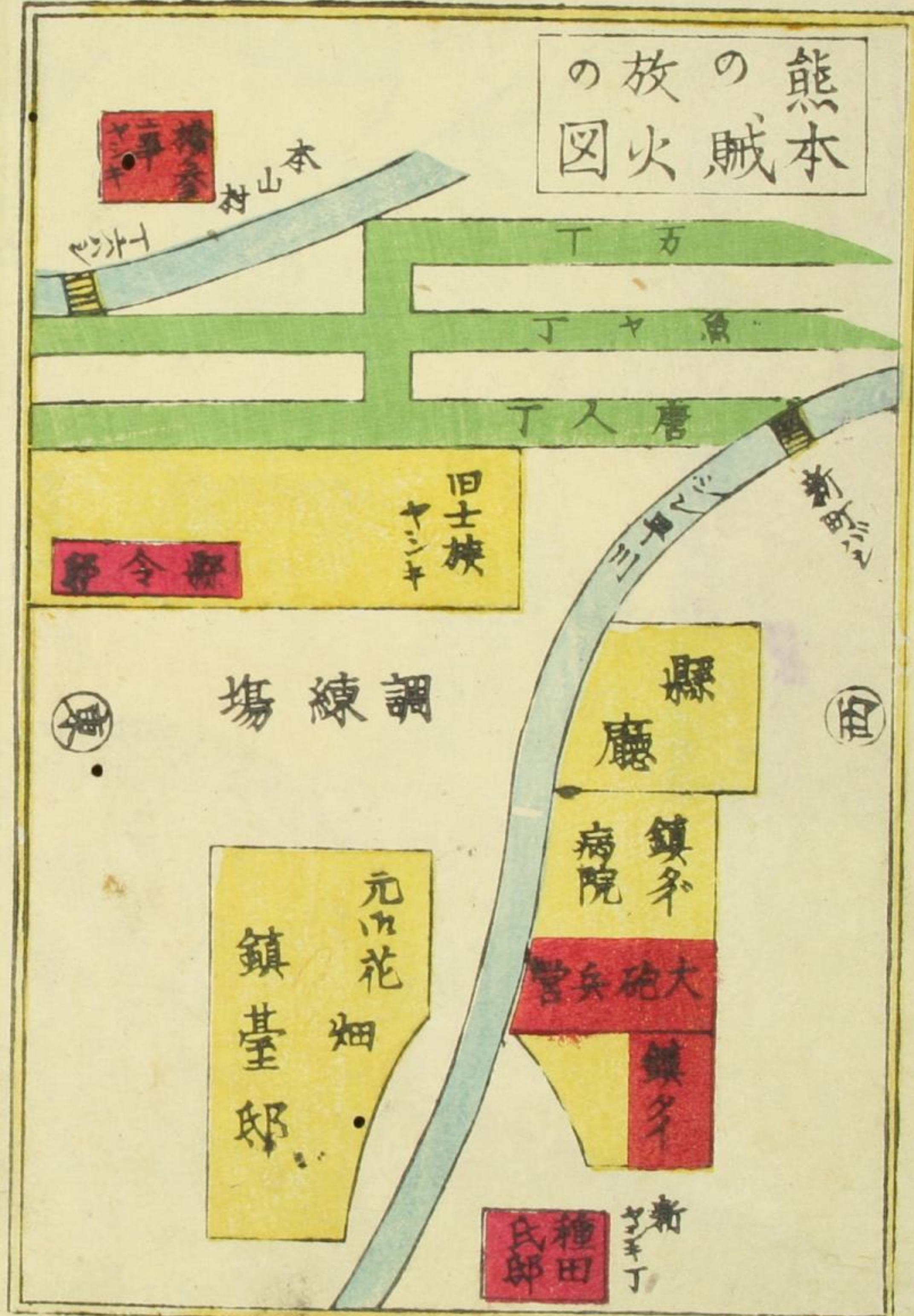
天照

繪本
熊本太平記
初号
上卷

樹
高
心



熊本の放火の図



おとけを果すやうなことをしよと
 小篠
 清四郎

うねをうらひこめりまろの
 小篠
 源三

おひてよりあひこめり
 武士の
 高田
 植彦

右に賊徒等が谷尾寄の山王堂まで自尽せし
 際の辞せたりと云

篠田仙果録





同愛敬左司馬

同富永守國



皇大神

大田黒伴雄共云

同加陽榮太
同大野鉄兵

熊本縣下の
賊徒
神風連
の巨魁

大

大

○加陽栄方いもと熊本の藩よりしてまづこの女人扶持を
らりし小身のものなれどきん王のころらういふのく
久文二戊午四月子の四郎時雄とを小本保保臣
平野次郎 後藤公卿らとごころとわかせ中野山
の長岡中河内伝藤原のちん 播磨口仕捕らと合し
て徳義とをへりんごめん 津川の友吏とせを
うづきもたきとす 伏見まぎのりりいその
をうりごとうずいて足舟とも熊本の藩よりひき
まききんーがま後之季うらりて舟の四郎時雄
ハ五王山よて十六士とをよ自ぬー栄をいふ
ひをきんーが維新の源多時きん王の志
と賞せし士族とあり 近海 津正とをうりしる

○熊本の藩の社引とつとりの
のけいひきれどきん王のころらういふのく
藩士の籍よくまうりたり又武の業よきし学校
の教員あり
○若水秀雄ハ須崎神社の祖友の子よして函を
つぎとす 武よ長せり
○富永中田 加見十郎られも持識のきこへ
ありて人望とほしとめどありとせ
林風きんのものどつねく 玉野の布衣と
きみーをえとりのせら論よどり強訴せしこ
ともわりうら四才の士族よきし 不審の事業の



あつものつゝ 孫 雁 とう
 もおだんちくうくー
 目つけとつけおぎーが
 かくれちりちりあゝハ
 るゝハ ちくちく
 後内へ ちりちりし
 ありさ まさたん
 きくオ ちり
 うーバ
 すてお
 うバ

首ハ

フ



しきたるゆものちあて
 いささんとあはれをハ
 小突をてア 仁尾
 大属 村上六等
 一等 巡査
 ひらとま村の
 きこも也ぐ
 ひらうぎ小▲

▲きこもれーがあはれを
 きるとあはれをハ
 巡査とあはれをハ
 後内へとつうま
 ーける



内田三郎 大田 藤村 平川
 藤村のあまのけのハクハ
 大田藤村のあまのけのハクハ
 藤村のあまのけのハクハ
 藤村のあまのけのハクハ
 藤村のあまのけのハクハ

▲十かきあつておけ
 おのくお糸のこ
 きれはておて
 ねたまのび
 けりの下
 り新出のこ
 このたうらあるの
 のきれ味を飲の
 座へあつたよ又
 人の電信局より
 電信の差紙は
 電信とたあまり
 電信と



まき 平野 英雄
 のあひのうぐ
 力をあつて
 陸軍が
 いられ
 信太の
 けう
 られ
 けう

むへし又
 へきり
 るめんく
 丁
 人町

